

よい論文を書くために「先行研究を調べて読む」のが大切なことは、Prismの111号で紹介しました。今回は実際に論文を書くときに必要になる「先行研究の書き方」です。具体的なテーマを例にしたアドバイス、参考にしてくださいね！



先行研究はどう書けばよいのか

皆さんが卒業論文やレポートを書く際、テーマが決まりそうな段階で「先行研究を読みましょ／調べましょ」と言われることと思います。また、論文などを読んでみると、1章や2章に「先行研究」を目にするのも多いでしょう。先行研究を書く理由としては、「全ての研究は先人の研究の上になりたっているから」などと言われることが多いですが、では、関連したテーマの研究をただ並べるだけでよいのでしょうか。

実は私は今でも先行研究の章を書くのに苦労します。そもそも学類生時代なんて（そして院生になってからも）、これまでの研究を羅列するだけの「第2章 先行研究」でした。そんな私ですが、少しでも皆さんの力になれるよう、最近やっと掴みかけている先行研究のまとめ方の一案をご紹介します（先行研究のまとめ方にルールはなく、研究分野や個人の趣向に拠るところもあるので、あくまで言語学関連分野が専門である筆者の場合の「一案」です）。

早速ですが、先行研究はどう書けばよいのでしょうか。言い方を変えると、先行研究の章または節で、書き手は読み手に対して何をしなければいけないのでしょうか。

簡単に言うと、

- ①自分の論文・レポートの立ち位置を示す
- ②自分の主張の新規性や意義を示す ことです。

では、①②のためには具体的に何をすればいいのでしょうか。分かりやすく説明するために、「レポート（日本語）の文末表現には何が使われているか」を論文のテーマにして執筆する場合を考えてみます。先行研究に関して迷っている方は、以下の□で囲んだところにそれぞれ自分のテーマに当たるものを入れて、考えてみてください。

①（先行研究によって）自分の論文・レポートの立ち位置を示す

まず、論文では、自分の研究がどんな研究なのかを読み手に伝える必要があります。この時、先行研究をまとめることで、自分のテーマが大まかに何の研究なのか示すことができます。上のテーマで言うと、**レポート**研究であり、かつ**文末表現**研究なので、各領域の、今まで明らかになったこと、用いられてきた研究手法、それらに対する筆者自身の評価等を述べます。これまで多くの研究蓄積がある領域か、これまでの知見はどのような対象／方法から得られてきたのか、その対象／方法は有効か、などをここで示します。



表 研究領域ごとの知見のまとめ (例)

	a. 研究蓄積	b. 対象	c. 方法	d. 調査範囲
レポート	多	大学生のレポート 日本語学習者のレ ポート	レポートを収集、 データ化、計量的 分析	10～30 表現
文末表現	多	新聞・書籍・論文な ど様々な書きこと ば	各データを計量 的に分析	5～100 以上の表現

こうした内容を提示することで、その論文が一体何について述べるために書かれた文章なのか、読み手の理解を方向付けることができるようになります。

② (先行研究によって) 自分の主張の新規性や意義を示す

表でまとめたところ、**レポート**研究、**文末表現**研究はこれまで多く行われているようでした。そのため、**レポートの文末表現**をテーマにすると、この2つの研究領域に何かしらの貢献をすることができそうです。しかし、これまでの研究と全く同じ主張では、論文の必須要素の一つである新規性を満たすことができません。そのため、①を踏まえて、自分のテーマがこれまでの研究とどう違って、どう価値があるのか示す必要があります。

表をみると、どうやら**レポート**研究の**d. 調査範囲**は、これまで**10～30 表現**と、**文末表現**研究よりも**少なく**見えます。そこで、次に考えるのが、なぜ**少ない**のか/本当に**少ない**のかということです。もしかすると**10～30 表現**といった**d. 調査範囲**が妥当なのかもしれませんし、本当に**少ない**のかもかもしれません。

こうした考えを経て**少ない**と判断した場合、対象や方法は先行研究に沿ったうえで、**レポート**研究の**d. 調査範囲**を例えば**50 表現**にするといった、論文の新規性を示すことができるようになります。また、これまで**調査範囲**が**少なかった**ために見えてこなかった事実を示すという点で、論文を価値づける(=意義を示す)ことができます。

やや長くなってしまいましたが、論文で先行研究をまとめる理由、そして具体的な書き方を紹介しました。この通りにしてしまうと、文系的な書き方になるかもしれませんし、いわゆる理・工学系分野では主張の意義を論文中で示すことはないかもしれません。ただ、①②はどのような論文でも満たす必要がある事柄なので、実際に文章として表れるかどうかといった差はありますが、常に意識する必要があると思います。

論文は、最初から最後までが筆者の主張であり、もちろん先行研究もその一部です。先人の力(=研究蓄積)を借りて、先行研究から論文のストーリーラインを作っていく作業は、パーツがはまり出すと楽しくなります。調べ、考えることを止めず、ぜひ挑戦してみてください。

文責：SAKAI (文芸・言語)

